

発展を目指す企業家のための経営指南役

No. 538

平成21年10月26日(月曜日)

社 外 重 役

Selected Clients & Professionals Relationship

発行) 株式会社ノースアイランド

東京本社) 東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル5F

Tel. 03-3216-2004 Fax. 03-3216-0439

大阪支社) 大阪市北区中之島3-3-23 中之島ダイビル9F

Tel. 06-6448-2004 Fax. 06-6448-0539

F P

税務会計

食費、娯楽・レジャー費を削りたい
大きな費目から大胆に手を付ける

6月勤労統計調査で賞与を含む給与総額の目減りが20年ぶりのワースト記録だった。こうなると生活は収入・支出のバランスに一層シビアになる節約しか手立てはないだろう。

自己防衛—節約術は費目の徹底的な見直しから始まる。日経生活モニター調査(回答2181人)はa「節約できそうな費目」とb「できれば節約したい費目」を選んでもらった。最大の目標となったのが食費。aを上げたのは44%、bでも35%。今の生活水準を点検し「エンゲル係数を下げるぞ!」という覚悟が見える。

次は娯楽・レジャーでa、bとも20~25%。以下に電気・ガス、衣料・美容、通信、交際、交通(自動車含む)、保険が並ぶ。これらの項目での特徴はaよりもb「できれば節約したい」の願望が上回っている点だ。膨張した生活レベルをスリム化するのがいかに難しいかがわかる。

専門家のアドバイスは(1)自動車、保険、通信といった大きな費目から大胆に見直す(2)食費、電気、ガス、水道は、特に食費で外食を避けることと食材購入がポイント。値引き品や底値買いは当たり前。電気・ガスもムダが多いので、風呂は二度沸かしを避ける(3)家計簿などで予算を組み月次で支出(ムダやかけ過ぎ費目)をチェックする。

教育費は親子の悩みだが、将来像を語り合い家族の絆を確かめる絶好の機会としたい。節約—我慢も家族の協力なくしては始まらないものである。

2008事務年度の輸入事後調査結果
申告漏れ額約1984億円は過去最高

財務省がこのほど発表した関税・消費税の申告内容の輸入事後調査結果によると、2008事務年度(2008年7月~2009年6月)において全国の税関は6,080者の輸入者に対して事後調査を行なった結果、申告漏れがあった輸入者は全体の68.9%とほぼ7割にあたる4,188者となり、過去最高だった。事後調査は、輸入貨物に係る関税・消費税が適正に納税申告されていたかどうかに関する税務調査。

また、申告漏れに係る課税価格は、前年度比22.7%増の約1,984億円となり、これに対する関税・消費税の追徴税額は同15.4%増の約130億円で、ともに過去最高額だった。追徴税額の内訳は、関税が同15.6%減の約21億円、消費税が同24.2%増の約109億円。ちなみに、これまでの最高額は、申告漏れに係る課税価格が約1,617億円、追徴税額が約112億円で、ともに2007事務年度のものだった。

納税額の不足が多かった品目は、「電気機器」が約23億円、「機械類」が約13億円、「鉱石」が約9億円、「鉱物性燃料」が約9億円、「有機化学品」約7億円。これら5品目で、納付不足税額の総額の50.6%を占める。

主な申告漏れの内容は、インボイスに記載された決済金額以外の貨物代金の申告漏れ、海外生産のために輸入者が輸出者に無償で提供した原材料費用などの申告漏れ、輸入港までの運賃などの申告漏れだった。

今週のキーワード

エンゲル係数

1857年、ドイツのエンゲルが「収入が増えるほど家計支出の食費の割合が低くなる。食費の割合は生活水準を表わす」と提唱した指標のこと。45年の日本は60%を超え、「食うので精一杯」という貧乏の比喻にもなった。90年代以降、約23%で横ばいしている。個々の生活様式が変わり、今では生活水準ではなくグルメ度を表す指標と見る人もいる。最近では中食(調理食品)への支出が増え、外食、内食(自宅調理)が減った。外食産業の衰退、総菜人気傾向を裏付けている。